

税を納める意味

台東区立上野中学校 2 年 成田 瑞葵

税金は、私たちにたくさんの経験をさせてくれる。税金とは何かをインターネットで調べてみると、「国や地方公共団体が、その必要な経費をまかなうために国民から徴収する金銭」と出てきた。では、「必要な経費」とあるが、私たちは何をもって「必要」なのか「不要」なのかを判断しているのだろうか。そしてそれは、私たちに何を与えてくれるのだろうか。

私は今夏、区の海外派遣事業で、オーストラリアへ短期留学をした。この事業には、書類や面接を通じて選抜された各中学校からのメンバーが参加し、事前学習を重ねて出発をした。そして現地では、ほとんど英語でコミュニケーションを取った。緊張してうまく話せないこともあったが、一週間という短い期間で大切な友達をつくることができた。そして最終日には、班ごとに計画を立て、シドニー市を観光することもできた。これが税金によって賄われていると考えると、感謝の気持ちしか生まれてこなかった。

しかし、ここで使用された税金は、同じ区に住んでいる人々が納めたものである。では、その税金は、この事業に関わっていない人たちにとって、必要だったのだろうかと考えてしまう。感謝の気持ちもあるのだが、それと同じくらい、申し訳ないという気持ちにもなってしまった。

だが、こういった考えにたどり着いてしまったとき、重要なのは「支え合い」という精神であると気が付いた。この世の中には、幼児、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人、高齢者など様々な人々が暮らしている。そして、それぞれの年代ごとに、求めるものは違ってくる。そのため、自分に必要なものには協力してもらい、自分に必要のないものにも協力するという関係が、社会を動かすことに繋がるのだ。また、自分に直接は関係のないものが、全く自分のためにならないという訳でもないだろう。こういった事の例を二つ挙げてみる。一つ目は、地域での図書館や公園の整備である。普段そういった場所に出向かないという人にとっては、あまり関係のないことかもしれない。だが、そういった施設が地域にあることにより、土地の価値が上がったり、治安が良く保たれたりする可能性がある。二つ目の例として、生活保護制度や、失業保険などが挙げられる。「自分は利用したことがない」という人も多いかもしれないが、この制度を続けることによって、ホームレスや犯罪の増加を抑えることができ、結果的に社会が安定することに繋がる。

このように、税金があることによって、私たちの間には見えない糸が紡がれる。その糸を通して、他人を助け、他人に助けられている。もしもこの社会に税金というものが存在しなかったら、繋がりがあるおかげで味わえる体験、経験も無くなる。だから今日も、自分のために、社会のために税を納めるのだ。